

公益社団法人日本地球惑星科学連合  
第 15 回学協会長会議

開催日時 平成 28 年 10 月 25 日(火)  
15 時 00 分から 17 時 00 分

開催場所 東京大学 地震研究所 1 号館 2 階セミナー室  
(〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1)



# 第 15 回学協会長会議 議事次第

## 1. 前回議事録確認

第 14 回議事録 (P.1-2)

## 2. 日本地球惑星科学連合活動報告

JpGU-AGU Joint Meeting 2017

2017 年大会概要 (P.3)

セッション受付状況 (P.4-9)

会場図 (P.10-15)

JpGU ジャーナルの進捗状況報告 (P.16-17)

団体社員の体制および規則について (P.18-25)

## 3. 日本学術会議の近況報告

日本学術会議報告 (P.26-27)

## 4. その他

日本気象学会報告

「原子力関連施設の事故に伴う放射性物質拡散に関する作業部会」の活動について (P.28)

日本地球化学会報告

「ゴールドシュミット会議 2016 (横浜) 開催の御報告と御礼」 (P.29)

公益社団法人日本地球惑星科学連合  
第14回学協会長会議議事録

開催日時 : 平成28年5月23日(火)午後0時30分から1時30分

開催場所 : 幕張メッセ国際会議場 コンベンションホールB

〒261-0023 千葉市美浜区中瀬 2-1

出席者 :

[学協会] 日比谷紀之(日本海洋学会、議長), 小林憲正(日本宇宙生物科学会), 大塚康範(日本応用地質学会), 井上源喜(日本温泉科学会), 篠原宏志(日本火山学会), 松岡篤(形の科学会), 宇根寛(日本活断層学会、日本地図学会), 岩崎俊樹(日本気象学会), 小山内康人(日本鉱物科学会), 前田晴良(日本古生物学会), 林歳彦(資源地質学会), 山岡耕春(日本地震学会), 野々垣 進(日本情報地質学会), 町田功(日本水文科学会), 樋口篤志(水文・水資源学会), 木部勢至朗(生態工学会), 小林憲正(生命の起原および進化学会), 小鷹長(石油技術協会), 高橋修平(日本雪氷学会), 日置幸介(日本測地学会), 今村隆史(日本大気化学会), 西谷由子(日本大気電気学会), 成瀬元(日本堆積学会), 小野昭(日本第四紀学会), 牧野泰彦(日本地学教育学会), 柳澤教雄(地学団体研究会), 谷口真人(日本地下水学会), 塚本尚義(日本地球化学会), 山崎俊嗣(地球電磁気・地球惑星圏学会), 倉茂好匡(日本地形学連合), 渡部芳夫(日本地質学会), 矢野雄策(日本地熱学会), 由井義通(地理科学学会), 小口高(日本地理学会), 竹内裕一(日本地理教育学会), 小荒井 衛(地理情報システム学会), 野上道男(東京地学協会), 小田隆史(東北地理学会), 森也寸志(土壌物理学学会), 篠原也寸志(日本粘土学会), 齋藤秀樹(物理探査学会), 楊宗興(日本陸水学会), 北岡豪一(陸水物理研究会), 田村正行(日本リモートセンシング学会), 倉本 圭(日本惑星科学会), 西弘嗣(地球環境史学会), [日本学術会議] 大久保修平, 藤井良一, 高橋桂子, 氷見山幸夫  
[連合] 津田敏隆, 川幡穂高, 木村学, 中村正人, 古村孝志, 中島映至  
(敬称略)

議事内容 :

議事に先立ち、出席者の自己紹介を行った。

1. 前回議事録確認

前回会議議事録を確認した。

2. 日本地球惑星科学連合活動報告

1) 2017年大会概要(津田会長)

2017年連合大会の開催状況について津田会長より報告があった。セッション数、投稿数、会場についての報告、緊急セッションの開催等について報告があった。また大会期間中に開催される各種イベントについても紹介があった。

2) PEPS出版状況の報告(川幡副会長)

連合ジャーナルPEPSの出版状況について川幡副会長より報告があった。出版開始より2年が経過したが、順調に投稿・出版されており、質の高い論文が投稿・出版されている。またレビュー論文は全出版数の30%以上となっている。現在、Impact Factorの取得へ向けて準備を進めている。

### 3) 連合第7期選挙について (津田会長)

連合の第7期代議員、セクション・プレジデント、さらに、今回初めて行われた理事候補者の選挙について津田会長より報告があった。平成27年8月4日から11月2日までの代議員選挙により選出された次期代議員100名の中からセクション・プレジデントが自薦・他薦により選出された。また、この次期代議員から自薦・他薦により理事への立候補者を募った上で選挙が実施され、その結果を基に、平成28年2月29日、役員候補者推薦委員会で、理事候補者20名、監事候補者3名が選出された。本学協会長会議の後の定時社員総会においてこれらの役員選出に関する審議を行う予定であることが報告された。

また今回の代議員選挙について、水関連学協会（日本地下水学会、日本雪氷学会、水文・水資源学会、日本温泉科学会、日本水文科学会、日本農業気象学会、日本陸水学会、陸水物理研究会）から提出された連合要望書、さらにそれに対する連合からの回答が紹介された。

今回の代議員選挙では旧来の5名に投票する方式から、選挙区分に割り当てられた代議員定員の半数までを選んで投票する方式に変更したが、これが水関連学会から代議員が選出されなかったことと関連したかどうかについての統計的分析の実行は、投票内容の非公開が保障されている以上、事実上不可能であるとの説明があった。今後は、1年半後に行われる次回の代議員選挙に向けて専門家の意見なども聞きながら投票方式に関する検討を続けるとともに、投票率を上昇させるべく尽力していく所存であることが報告された。

また、代議員には所属学協会を超えて、各セクションの振興、さらに連合全体の活動をリードする役割が期待されており、所属学協会の利益代表ではないことについての理解があらためて求められた。

### 3. 団体会員に関する定款および関連規則の変更について (津田会長)

団体会員に関する定款および関連規則の変更に関して、昨年度定時社員総会以降の検討状況について津田敏隆会長から説明がなされた。引き続き理事会にて検討し、来年度の定時社員総会にて定款及び関連規則の変更を議事として諮ることを予定している旨の報告があった。

具体的には、団体会員について、社員としてではなく別の形で連合の運営に関わるよう変更することを検討している。その一案として、理事会との連携強化に向け、従来の学協会長会議に加え、学協会長会議幹事会（仮称）の設置とその具体的な開催を出席者に諮り、ともに了承された。

### 4. 日本学術会議の近況報告 (日本学術会議地球惑星科学委員会 大久保委員長)

大久保委員長より、日本学術会議の活動報告があった。大型研究計画募集と選定についての活動状況、防衛装備庁の安全保障技術推進制度に対する対応、地球惑星科学関連の提言等が報告された。

また、地球惑星科学委員会の活動報告があった。電子ジャーナルに関するアンケート調査の実施、SPEEDI等の問題に対する検討の報告などがあった。

### 5. 次期学協会長会議議長を選任

次期学協会長会議議長を選任を行った。出席者からの自薦・他薦はなかったが、日比谷議長から地球化学会の塚本尚義会長が次期学協会長会議議長に推薦された。塚本尚義会長の推薦受諾を確認した上で出席者にその可否を諮ったところ、満場一致で承認された。

以上

## 2.日本地球惑星科学連合活動報告

### 2017年連合大会準備状況報告

#### 【開催概要】

名称	JpGU-AGU Joint Meeting 2017
会期	2017年5月20日(土)～5月25日(木) 6日間
会場	幕張メッセ 国際会議場 (17会場×6日間) 国際展示場 (ポスター発表および展示ブース) APA ホテル東京ベイ幕張 (9会場×5日間)

#### 【大会開催期間中の主な予定】

- 5月20日(土) パブリックセッション、アイスブレイカー  
5月21日(日) パブリックセッション、高校生セッション、基調講演 PM2  
5月22日(月) International Mixer Luncheon(ランチタイム/ホテルニューオータニ幕張)  
Presidential Reception(夜間/ホテルニューオータニ幕張)  
5月23日(火) 学協会長会議、定時社員総会、フェロー贈賞式、西田賞授賞式、懇親会等

#### 【タイムテーブル】

AM1	9:00～10:30
AM2	10:45～12:15
Lunchtime	12:15～13:45
PM1	13:45～15:15
PM2	15:30～17:00
PM3 (ポスターコアタイム)	17:15～18:30

#### 【Important Dates】

2016年

9月1日(木)	セッション提案開始
10月13日(木)	セッション提案締切
11月1日(火)	出展申し込み受付開始
11月14日(月)	開催セッション・コマ割り公開

2017年

1月6日(金)	投稿・参加登録開始
2月3日(金)	投稿早期締切(～12:00)
2月16日(木)	投稿最終締切(～17:00)
3月8日(水)	採択通知
3月10日(金)	発表プログラム一般公開
5月8日(月)	早期参加登録締切(～17:00)
5月11日(木)	予稿PDF公開

※オレンジのセルはマージを交渉中

No.	Session ID	言語	タイトル	代表コンピーナ	共同コンピーナ1	共同コンピーナ2	共同コンピーナ3	共催団体	共催学会	
[ U ] Union									EE: 3 / EJ: 1 / JJ: 1 / Total: 5	
NEW	293	U	EE	Discoveries from Subseafloor Sampling and Monitoring using Scientific Ocean Drilling	末広 潔	James A Austin	Keir Becker	村山 雅史	日本地球掘削科学コンソーシアム(J-DESC)	
	267	U	EJ	連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？	奥村 晃史	川畑 大作	吉田 英嗣			
	25	U	EE	地球惑星科学における学術出版の将来	川幡 穂高	小田 啓邦				
	191	U	EE	JpGU-AGU great debate: Geoscience and Society	Liu Huixin	入松 徹男				
	143	U	JJ	地球惑星科学の進むべき道-7:防衛装備庁安全保障技術研究制度	大久保 修平	川幡 穂高	藤井 良一	田近 英一	日本学会議	
[ O ] Pubic									EE: 0 / EJ: 1 / JJ: 6 / Total: 7	
NEW	272	U or O	EJ	Innovative research at the intersection of geoscience and health science	Geoffrey S Plumlee	Christine McEntee	春日 文子			
	84	O	JJ	学校教育における地球惑星科学用語	尾方 隆幸	根本 泰雄	小林 則彦	宮嶋 敏		
	225	O	JJ	地球・惑星科学トップセミナー	原 辰彦	成瀬 元	道林 克禎	関根 康人		
	264	O	JJ	高校生によるポスター発表	原 辰彦	道林 克禎	久利 美和	山田 耕		
NEW	52	O	JJ	若手研究者のためのキャリアパスセミナー	宋 苑瑞	吉川 知里	鈴木 由希			
	258	O	JJ	キッチン地球科学 -手を動かすことの利点-	久利 美和	栗田 敬	熊谷 一郎			
	305	O	JJ	日本のジオパークしくじりから見えてくるジオパークの理想像	松原 典孝					
[ P ] Space and Planetary Sciences									EE: 14 / EJ: 5 / JJ: 6 / Total: 25	
	1	P	PS	EE	Outer Solar System Exploration Today, and Tomorrow	木村 淳	笠羽 康正	Vance Steven	Sayanagi M. Kunio	
	116	P	PS	EE	Small Solar System Bodies	中本 泰史	渡邊 誠一郎	安部 正真	石黒 正晃	
NEW	75	P	PS	EE	The asteroid belt and its specimens on the Earth	eleonora ammannito	Christopher T Russell			
NEW	291	P	PS	EE	Regolith Science	和田 浩二	Patrick Michel	中村 昭子	Kevin John Walsh	
	105	P	PS	EJ	アルマによる惑星科学の新展開	百瀬 宗武	小林 浩	下条 圭美	野村 英子	
	276	P	PS	EJ	Mars and Mars system: results from a broad spectrum of Mars studies and aspects for future missions	宮本 英昭	臼井 寛裕	松岡 彩子	Sushil K Atreya	
NEW	145	P	PS	EJ	あかつき金星周回1.5年とその科学成果	佐藤 毅彦	堀之内 武	山本 勝	Kevin McGouldrick	地球電磁気・地球惑星圏学会
	7	P	PS	JJ	惑星科学	鎌田 俊一	岡本 尚也			日本惑星科学会
	186	P	PS	JJ	月の科学と探査	長岡 央	諸田 智克	西野 真木	本田 親寿	地球電磁気・地球惑星圏学会 月科学研究会
	251	P	PS	JJ	宇宙における物質の形成と進化	橘 省吾	三浦 均	大坪 貴文	野村 英子	新学術研究領域「宇宙分子進化」
	283	P	PS	JJ	太陽系における惑星物質の形成と進化	臼井 寛裕	宮原 正明	山口 亮	癸生川 陽子	
	20	P	EM	EE	Mesosphere-Thermosphere-Ionosphere Coupling in the Earth's Atmosphere	Chang Loren	Liu Huixin	齊藤 昭則	Tzu-Wei Fang	
	27	P	EM	EE	Space Weather, Space Climate, VarSITI	片岡 龍峰	Antti A Pulkkinen	草野 完也	塩川 和夫	地球電磁気・地球惑星圏学会
	45	P	EM	EE	Exploring space plasma processes with Magnetospheric Multiscale (MMS) mission	長谷川 洋	Thomas Earle Moore	Benoit Lavraud	Seiji Zenitani	地球電磁気・地球惑星圏学会
	54	P	EM	EE	Dynamics in magnetosphere and ionosphere	堀 智昭	田中 良昌	中溝 葵	尾崎 光紀	地球電磁気・地球惑星圏学会
	126	P	EM	EE	太陽地球系結合過程の研究基盤形成	山本 衛	小川 泰信	野澤 悟徳	吉川 顕正	地球電磁気・地球惑星圏学会
	144	P	EM	EE	Physics of Earth's Inner Magnetosphere	Danny Summers	海老原 祐輔	三好 由純	Aleksandr Y Ukhorskiy	地球電磁気・地球惑星圏学会
NEW	151	P	EM	EE	Recent Advances in Ionosphere Observation and Modeling for Monitoring and Forecast	Lin Charles	Yang-Yi Sun	陣 英克	Jaeheung PARK	AOGS
NEW	202	P	EM	EE	Origin of Earth-affecting Coronal Mass Ejections	No? Lugaz	草野 完也	Neel P Savani	浅井 歩	
NEW	212	P	EM	EE	Inner Magnetosphere Coupling Physics	Jichun Zhang	桂華 邦裕	Dae-Young Lee	Yiqun Yu	
	56	P	EM	EJ	Heliosphere and Interplanetary Space	坪内 健	西野 真木	成行 泰裕		地球電磁気・地球惑星圏学会
	21	P	EM	JJ	宇宙プラズマ理論・シミュレーション	梅田 隆行	成行 泰裕	三宅 洋平	中村 匡	地球電磁気・地球惑星圏学会
	160	P	EM	JJ	大気圏・電離圏	大塚 雄一	津川 卓也	川村 誠治		地球電磁気・地球惑星圏学会
	91	P	CG	EE	宇宙・惑星探査の将来計画と関連する機器開発の展望	笠原 慧	亀田 真吾	尾崎 光紀	笠原 禎也	地球電磁気・地球惑星圏学会
	205	P	CG	EJ	惑星大気圏・電離圏	関 華奈子	高橋 芳幸	中川 広務	深沢 圭一郎	地球電磁気・地球惑星圏学会
[ A ] Atmospheric and Hydrospheric Sciences									EE: 24 / EJ: 9 / JJ: 21 / Total: 54	
	119	A	AS	EE	Global Carbon Cycle Observation and Analysis	三枝 信子	Patra Prabir	町田 敏暢	David Crisp	
NEW	19	A	AS	EE	3D Cloud Modeling as a Tool for 3D Radiative Transfer, and Conversely	Thomas Fauchez	Anthony B Davis	岩瀬 弘信	鈴木 健太郎	
NEW	78	A	AS	EE	Cloud-Resolving Model Simulations for Cloud-Related Processes in Climate and Weather Studies	Toshi Matsui	佐藤 正樹	Wei-Kuo Tao		日本気象学会
NEW	86	A	AS	EE	Satellite Based Remote Sensing of Weather, Climate, and Environment	Allen A Huang				
	281	A	CG	EE	衛星による地球環境観測	沖 理子	Garr Skofronick	本多 嘉明	Paul Chang	
NEW	101	A	AS	EE	最新の気象科学: 海大陸研究強化年-YMC	米山 邦夫	Chidong Zhang	竹見 哲也		日本気象学会
NEW	149	A	AS	EE	Contributions of local and long-range transport to air pollutants in mega-cities	Hongliang Zhang	Jianlin Hu	Sri Harsha Kota	Jia Xing	EGU

NEW	193	A	AS	EE	台風研究の新展開～過去・現在・未来	中野 満寿男	和田 章義	金田 幸恵	伊藤 耕介		日本気象学会
NEW	203	A	AS	EE	Aerosol impacts on air quality and climate	Kyu-Myong Kim	安成 哲平	Mian Chin	竹村 俊彦		
NEW	247	A	AS	EE	雲降水過程の統合的理解に向けて	鈴木 健太郎	高数 縁	Nagio Hirota	Tomoki Miyakawa		
NEW	271	A	AS	EE	成層圏-対流圏相互作用 —統一領域としての新しい視点—	江口 菜穂	Rei Ueyama	Sean M Davis	Seok Woo Son		
NEW	301	A	AS	EE	Interhemispheric and intrahemispheric coupling of the atmosphere	佐藤 薫	堤 雅基	富川 喜弘			
	38	A	AS	JJ	大気化学	入江 仁士	町田 敏暢	谷本 浩志	岩本 洋子		日本大気化学会
	218	A	AS	JJ	高性能スーパーコンピュータを用いた最新の大気科学	瀬古 弘	三好 建正	小玉 知央	滝川 雅之		日本気象学会
	148	A	OS	EE	陸域海洋相互作用	山敷 庸亮	升本 順夫	Behera Swadhin	宮澤 泰正		日本海洋学会 水文・水資源学会
NEW	66	A	OS	JJ	陸域と海洋をつなぐ水循環の物理過程	木田 新一郎	山崎 大	松村 義正	山敷 庸亮		日本海洋学会 水文・水資源学会
	240	A	OS	EE	Marine ecosystems and biogeochemical cycles: theory, observation and modeling	平田 貴文	伊藤 進一	Eileen E Hofmann			日本海洋学会
	250	A	OS	EE	海洋混合に関わる諸問題	日比谷 紀之	Louis St Laurent	RenChieh Lien	Robin Ann Robertson		日本海洋学会
NEW	197	A	OS	EE	地球規模環境変化に関する分野横断的海洋研究	河宮 未知生	伊藤 進一	栗原 晴子	見延 庄士郎		日本海洋学会
NEW	208	A	OS	EE	Climate variations in the Atlantic Ocean and their representation in climate models	Ingo Richter	Noel S Keenlyside	Thomas Spengler	Carlos R Mechoso		日本海洋学会
NEW	259	A	OS	EJ	Beyond physics-to-fish: Integrative impacts of climate change on living marine resources	Rebecca G Asch	Colleen Mary Petrik	Gabriel Reygondeau	Maria De Oca		
NEW	268	A	OS	EJ	海洋気候モデリングの現状と展望 (CMIP6/OMIPの紹介)	辻野 博之	小室 芳樹				日本海洋学会
NEW	302	A	OS	EJ	Research for a healthy ocean and a sustainable use of its resources and services	Thorsten Kiefer	山形 俊男	古谷 研			
NEW	73	A	OS	JJ	海洋物理学	東塚 知己	吉川 裕	Shinya Kouketsu	田中 祐希		日本海洋学会
NEW	98	A	OS	JJ	海洋化学	川合 美千代	野村 大樹	芳村 毅			日本海洋学会
NEW	99	A	OS	JJ	海洋と大気の計測技術—センサーからプラットフォームまで—	安藤 健太郎	Hiroshi Uchida	石原 靖久			日本海洋学会
NEW	107	A	OS	JJ	地球温暖化・海洋酸性化に対する沿岸・近海地域の海洋応答	小笠 恒夫	藤井 賢彦	芳村 毅			日本海洋学会
NEW	132	A	OS	JJ	海洋生物資源保全のための海洋生物多様性変動研究	小池 勲夫	中田 薫	藤倉 克則	杉崎 宏哉		日本海洋学会
NEW	139	A	OS	JJ	インド洋域の物理・生物地球化学・生態系と相互連関	升本 順夫	齊藤 宏明	植木 巖			日本海洋学会
NEW	150	A	OS	JJ	生物海洋学	齊藤 宏明	杉崎 宏哉				日本海洋学会
NEW	190	A	OS	JJ	海洋と大気の変動・渦・循環力学	古恵 亮	久木 幸治	三寺 史夫	杉本 憲彦		日本海洋学会
NEW	222	A	OS	JJ	沿岸域の海洋循環・物質循環と生物の応答動態	森本 昭彦	田中 潔	福田 秀樹	栗原 晴子		日本海洋学会
NEW	224	A	OS	JJ	近海・縁辺海・沿岸海洋で海洋学と古海洋学の連携を探る	Atsuhiko Isobe	加 三千宣	木田 新一郎			日本海洋学会
	35	A	HW	EE	Biodiversity, nutrients and other materials in ecosystems from headwaters to coasts	奥田 昇	小野寺 真一	池谷 透	Adina Paytan		日本陸水学会、土壌物理学会、日本地下水学会、日本水文科学会、陸水物理学研究会、日本海洋学会、日本土壌肥科学会、日本堆積学会、日本第四紀学会、ASLO
NEW	298	A	HW	EE	Water cycle characterization with numerical modelling and isotope tracer techniques	Gusyev Maksym	林 武司				
	163	A	HW	EJ	水循環・水環境	林 武司	長尾 誠也	町田 功	飯田 真一		日本地下水学会、日本地球化学会 日本水文科学会、水文・水資源学会
	11	A	HW	EJ	同位体水文学 2017	安原 正也	風早 康平	浅井 和由	大沢 信二		日本水文科学会
	200	A	HW	JJ	都市域の水環境と地質	林 武司	西田 継	鈴木 弘明	浅田 素之		
	153	A	CG	EJ	アイスコアと古環境変動	川村 賢二	竹内 望	阿部 彩子			日本雪水学会
	216	A	CG	JJ	雪水学	縫村 崇行	堀 雅裕	石川 守	館山 一孝		日本雪水学会
	173	A	GE	EE	地質媒体における物質移動と環境評価	濱本 昌一郎	Yuki Kojima	斎藤 広隆	森 也寸志		土壌物理学会
NEW	221	A	GE	EE	エネルギー・環境・水ネクサスと持続的発展	張 銘	薛 強	温 志超	川本 健		
NEW	290	A	TT	EJ	Operational Meteorological & Oceanographic Forecasting for Military, Government, Industry	John E M Brown	清原 康友				
NEW	167	A	TT	JJ	飛行艇を用いた臨床地球惑星科学の創成	角皆 潤	植松 光夫	谷本 浩志	篠原 宏志		日本地球化学会
	2	A	CG	EE	中緯度大気海洋相互作用	Nishii Kazuaki	Yoshi N Sasaki	杉本 周作	大石 俊		日本海洋学会 日本気象学会
	118	A	CG	EE	Asian monsoon hydro-climate and water resources research for GEWEX	鼎 信次郎	樋口 篤志	松本 淳	横井 寛		水文・水資源学会 日本気象学会
	214	A	CG	EE	熱帯インド洋・太平洋におけるマルチスケール大気海洋相互作用	名倉 元樹	H Annamalai	清水 亜矢子	今田 由紀子		日本海洋学会
	13	A	CG	EJ	陸域生態系の物質循環	加藤 知道	平野 高司	佐藤 永	平田 竜一		
	77	A	CG	EJ	北極域の科学	森 正人	津滝 俊	鄭 峻介	漢那 直也		
	83	A	CG	JJ	地球惑星科学における航空観測利用の推進	高橋 暢宏	小池 真	鈴木 力英	町田 敏暢		日本気象学会 日本大気化学会
	103	A	CG	JJ	沿岸海洋生態系—2. サンゴ礁・藻場・マングローブ	宮島 利宏	梅澤 有	渡邊 敦			日本海洋学会 日本サンゴ礁学会
	120	A	CG	JJ	沿岸海洋生態系—1. 水循環と陸海相互作用	小路 淳	杉本 亮	山田 誠	藤井 賢彦		
NEW	185	A	CG	JJ	植物プランクトン増殖に関わる海洋—大気間の生物地球化学	西岡 純	鈴木 光次	宮崎 雄三	谷本 浩志		日本海洋学会 日本大気化学会
NEW	280	A	CG	JJ	気候変動への適応とその社会実装	石川 洋一	渡邊 真吾	大柴 浩司			
[ H ] Human Geosciences										EE: 18 / EJ: 4 / JJ: 16 / Total: 38	
NEW	292	H	GG	EE	Mapping phenology with long-term continuous remote sensing observations	堤田 成政					
	278	H	GG	JJ	自然資源・環境の利用と管理	上田 元	大月 義徳				
	192	H	GM	EE	Geomorphology	島津 弘	瀬戸 真之				日本地形学連合
	194	H	GM	JJ	地形	島津 弘	瀬戸 真之				日本地形学連合

	127	H	QR	JJ	ヒト-環境系の時系列ダイナミクス	須貝 俊彦	小荒井 衛	水野 清秀	米田 稷			日本第四紀学会
	6	H	SO	EE	景観評価の国際比較	青木 陽二						
	246	H	SO	EJ	人間環境と災害リスク	青木 賢人	松多 信尚	須貝 俊彦	小荒井 衛			日本地理学会, 日本活断層学会, 日本第四紀学会 地理情報システム学会, 日本地質学会
	230	H	SC	JJ	地球温暖化防止と地学(CO2地中貯留・有効利用、地球工学)	徳永 朋祥	薛 自求	徂徠 正夫				
	171	H	DS	EE	Landslides and related phenomena	千木良 雅弘	王 功輝	今泉 文寿				
	253	H	DS	EE	Natural hazards impacts on the society, economics and technological systems	PETROVA ELENA	松島 肇			EGU		
NEW	17	H	DS	EE	Enhancing Scientific and Societal Understanding of Geohazards in an Engaged Global Community	大久保 泰邦	Yildirim Dilek	後藤 和久	小川 勇二郎	日本学術会議		物理探査学会, 東京地学協会, 日本リモートセンシング学会, 日本地質学会, 日本応用地質学会, 日本地質学会
NEW	154	H	DS	EE	Tsunami disaster mitigation	対馬 弘晃	馬場 俊孝	Eddie N. Bernard				
NEW	255	H	DS	EE	Remote Sensing of Natural Hazards and Mitigation of Impacts on Human/Ecosystem	Ramesh P Singh	後藤 和久	Patra Prabir				日本宇宙生物科学会, 日本情報地質学会, 地理科学学会, 日本サンゴ礁学会, 生態工学会, 日本活断層学会, 東北地理学会, 日本水文学会, 日本気象学会, 日本沙漠学会
NEW	265	H	DS	EE	Integrated Research to promote Sendai Framework for Disaster Risk Reduction	佐竹 健治	今村 文彦	春山 成子	林 春男			
	170	H	DS	EJ	海底地すべりとその関連現象	北村 有迅	大坪 誠					
	112	H	DS	JJ	津波とその予測	行谷 佑一	山本 直孝					日本地震学会
	172	H	DS	JJ	湿潤変動帯の地質災害とその前兆	千木良 雅弘	小嶋 智	八木 浩司	内田 太郎			日本応用地質学会 日本地質学会
NEW	85	H	RE	JJ	再生可能エネルギーの効果的な利用に向けた地球科学データの活用	大竹 秀明	宇野 史暁	島田 照久	野原 大輔			
	41	H	TT	EE	GEOSCIENTIFIC APPLICATIONS OF HIGH-DEFINITION TOPOGRAPHY AND GEOPHYSICAL MEASUREMENTS	早川 裕弐	佐藤 浩	楠本 成寿	内山 庄一郎	EGU		
	232	H	TT	EE	Geographic Information Systems and Cartography	小口 高	村山 祐司	若林 芳樹				地理情報システム学会, 日本地図学会, 日本地理学会
NEW	122	H	TT	EE	Environmental Remote Sensing	Wei Yang	作野 裕司	桑原 祐史	近藤 昭彦			日本リモートセンシング学会, 日本地理学会 水文・水資源学会
	117	H	TT	JJ	環境リモートセンシング	石内 鉄平	島崎 彦人	長谷川 均	近藤 昭彦			日本リモートセンシング学会, 日本地理学会, 水文・水資源学会
NEW	257	H	TT	EE	Non destructive techniques applied to stone cultural heritages	小口 千明	Celine Elise Thomachot-Schneider	Patricia V?zquez	青木 久	EGU		日本地形学連合
	55	H	TT	JJ	環境トレーサビリティ手法の開発と適用	陀安 一郎	中野 孝教	木庭 啓介				
	176	H	TT	JJ	地理情報システムと地図・空間表現	小荒井 衛	吉川 真	鈴木 厚志				日本地図学会, 地理情報システム学会 日本地理学会
NEW	210	H	TT	JJ	浅層物理探査	尾西 恭亮	高橋 亨	青池 邦夫	井上 敬資			物理探査学会
NEW	90	H	CG	EE	Human-Natural system interactions and solutions for environmental management	Yuei-An Liou						Taiwan Group on Earth Observations
	102	H	CG	EE	水-人間系の動態: 観測、理解、モデル化とマネジメント	沖 大幹	Murugesu Sivapalan	Giuliano Di Baldassarre			日本学術会議	
	198	H	CG	EE	デルタ(三角州): 複雑系への学際的アプローチ	齋藤 文紀	Paola Passalacqua	堀 和明	Efi Foufoula-Georgiou			日本第四紀学会
	179	H	CG	EE	Implementing Human Dimensions Research for the Earths Future	水見山 幸夫	櫻井 武司	蟹江 憲史	阿部 健一			
	279	H	CG	EE	Global Land Project - Its multi-faceted roles in Future Earth	木本 浩一	水見山 幸夫	柴田 英昭	王 勤学			
	115	H	CG	EJ	堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表面環境変動	清家 弘治	高柳 栄子	成瀬 元	山口 直文			日本堆積学会 地質学会堆積地質部会
NEW	169	H	CG	EJ	福島第一原子力発電事故からの地域復興に貢献できること	西村 拓	溝口 勝	登尾 浩助				土壌物理学会 農業農村工学会
	65	H	CG	JJ	原子力と地球惑星科学	笹尾 英嗣	佐藤 努	幡谷 竜太				
	96	H	CG	JJ	原子力発電所の基準地震動: 理学と工学の両面から考える	末次 大輔	橋本 学	鷲谷 威	寿楽 浩太			
	303	H	CG	JJ	閉鎖生態系と生物のシステム-生物のシステムを介した物質循環	富田一横谷香織	木村 駿太					
	182	H	CG	JJ	社会とともに地球環境問題の解決に取り組む超学際研究の未来	近藤 康久	近藤 昭彦	木本 浩一	手代木 功基			
NEW	248	H	CG	JJ	【Poster】 海岸低湿地における地形・生物・人為プロセス	藤本 潔						
[ S ] Solid Earth Sciences											EE: 38 / EJ: 14 / JJ: 27 / Total: 79	
	215	S	GD	EE	Geodetic Technologies, Networks and Strategies for Global Geodetic Observing System (GGOS)	川畑 亮二	Michael R Pearlman					日本測地学会
	184	S	GD	EJ	重カ・ジオイド	山本 圭香	宮崎 隆幸					日本測地学会
	131	S	GD	EJ	測地学一般	風間 卓仁	松尾 功二					日本測地学会
	183	S	SS	EE	Subduction zone dynamics from regular earthquakes through slow earthquakes to creep	金川 久一	小原 一成	Demian M Saffer	Wallace Laura			
	273	S	SS	EE	統計および物理モデルに基づく地震活動予測	鶴岡 弘	平田 直	Schorlemmer Danijel	庄 建倉			
	245	S	SS	EE	Earthquake statistics and beyond - From the preparation phase of earthquakes to seismic hazard	Schorlemmer Danijel	平田 直	Matt Gerstenberger	鶴岡 弘			
NEW	226	S	SS	EE	From Earthquake Source and Seismicity Parameters to Fault Properties and Strong-motion Assessment	内出 崇彦	Enescu Bogdan	Hiroki Sone				
NEW	270	S	SS	EE	地表地震断層の調査・分析・災害評価	奥村 晃史	Baize St?phane	松多 信尚	吾妻 崇			日本活断層学会 日本第四紀学会
NEW	277	S	SS	EE	Earthquake Modeling and Simulation	福山 英一	John B Rundle	深畑 幸俊				
NEW	282	S	SS	EE	Rethinking PSHA	Matt Gerstenberger	はお 憲生	Ma Kuo-Fong	Schorlemmer Danijel			
	15	S	SS	EJ	地殻変動	道家 涼介	落 唯史					日本測地学会 日本地震学会
	89	S	SS	EJ	地震波伝播: 理論と応用	西田 究	中原 恒	白石 和也	松島 潤			
	177	S	SS	EJ	活断層と古地震	小荒井 衛	杉戸 信彦	松多 信尚	安江 健一			日本第四紀学会, 日本地震学会 日本地質学会, 日本活断層学会
	5	S	SS	JJ	地震活動	加藤 愛太郎						日本地震学会

	10	S	SS	JJ	地震予知・予測	馬場 俊孝						日本地震学会
	32	S	SS	JJ	強震動・地震災害	津野 靖士						日本地震学会
	67	S	SS	JJ	地殻構造	青柳 恭平						日本地震学会
NEW	234	S	SS	JJ	【Poster】 Crustal Structure	Gokul Kumar Saha						
	156	S	SS	JJ	地震発生の物理・断層のレオロジー	松澤 孝紀	飯沼 卓史	谷川 亘	向吉 秀樹			
	26	S	EM	EE	General Contributions in Geomagnetism, Paleomagnetism, and Rockmagnetism	小田 啓邦	望月 伸竜	Joshua M Feinberg	Myriam Annie Claire Kars			地球電磁気・地球惑星圏学会
	8	S	EM	JJ	電気伝導度・地殻活動電磁気学	山崎 健一	宇津木 充					地球電磁気・地球惑星圏学会
	266	S	EM	JJ	地磁気・古地磁気・岩石磁気	菅沼 悠介	山本 裕二	畠山 唯達				地球電磁気・地球惑星圏学会
	42	S	IT	EE	マントルブルームは存在するか？	眞島 英壽	Gillian R Foulger	趙 大鵬				
	50	S	IT	EE	核-マントルの相互作用と共進化	土屋 卓久	Satish-Kumar Madhusoodhan	入舩 徹男				
NEW	187	S	IT	EE	Structure, formation, and evolution of terrestrial planet cores	寺崎 英紀	Hernlund John	大谷 栄治				
	81	S	IT	EE	Structure and Dynamics of Earth and Planetary Mantles	中川 貴司	趙 大鵬	芳野 極				
	136	S	IT	EE	地殻応力研究の最前線：観測・実験・モデリングの統合	吳 泓昱	木下 正高	宮川 歩夢	Hsin-Hua Huang			
NEW	175	S	IT	EE	Composition and thermal evolution of the silicate Earth	William F McDonough	中川 貴司	渡辺 寛子				
	207	S	IT	EE	New constraints on the asthenosphere and its role in plate tectonics	William Bythewood Hawley	川勝 均	日置 幸介	Thorsten W Becker			
NEW	28	S	IT	EE	Fluid-mediated processes and properties near convergent plate boundaries	Mysen Bjorn	大谷 栄治	岩森 光	McCammon Catherine			
NEW	111	S	IT	EE	Carbon in Planetary Interiors	Craig E Manning	大谷 栄治	鍵 裕之	Litasov Konstantin			
NEW	227	S	IT	EE	Seismic attenuation: Observations, Experiments, and Interpretations	武井 康子	Douglas Wiens	竹内 希				
NEW	236	S	IT	EE	New perspectives on East Asia geodynamics from the crust to the mantle	Timothy B Byrne	木村 学	Jonny E Wu	沖野 郷子			
NEW	254	S	IT	EE	Characterizing/contrasting seismic discontinuities in the oceanic and continental lithosphere	Xuzhang Shen	Younghee Kim	Teh-Ru Alex Song	Rainer Kind			
NEW	300	S	IT	EE	Revisit Bullen's layer C - Mantle transition zone and beyond	Teh-Ru Alex Song	Younghee Kim	Xuzhang Shen	川勝 均			
NEW	239	S	IT	EJ	Recent earthquakes and deep structure of the Earth in and around Tibetan Plateau	Ling Bai	Mori James	佐藤 比呂志	石川 有三			
NEW	263	S	GL	EE	Geodynamics of convergent margins: theoretical, laboratory and natural examples	ウォリス サイモン	森 宏	永治 方敬	水上 知行			
	261	S	CG	EE	Shallow and intermediate depth intraslab earthquakes: seismogenesis and rheology of the slab	大内 智博	北 佐枝子	Brent G Delbridge	片山 郁夫			
	235	S	GL	EJ	「泥火山」の新しい研究展開に向けて	浅田 美穂	土岐 知弘	井尻 暁	辻 健			
NEW	168	S	GL	EJ	断層における年代と熱および流体流動の時空間的4D履歴の構築	Horst Zwingmann	田上 高広					
	155	S	GL	JJ	地域地質と構造発達史	山縣 毅	大坪 誠					日本地質学会
	165	S	GL	JJ	地球年代学・同位体地球科学	田上 高広	佐野 有司					日本学術会議
	286	S	GL	JJ	上総層群における下部一中部更新統境界GSSP	岡田 誠	菅沼 悠介	風岡 修				日本地質学会
	88	S	RD	JJ	資源地質学	大竹 翼	野崎 達生	実松 健造	高橋 亮平			資源地質学会
	100	S	MP	EE	Supercontinents and Crustal Evolution	Satish-Kumar Madhusoodhan	小山内 康人	Geoffrey Hugo Grantham	Sajeev Krishnan			日本鉱物科学会
	243	S	MP	EE	Oceanic and Continental Subduction Processes	Hafiz Ur REHMAN	辻森 樹	Chin Ho Tsai				日本地質学会
NEW	269	S	MP	EE	Crust-Mantle Connections	田村 芳彦	高澤 栄一	Katy Jane Chamberlain				日本地質学会、日本火山学会、日本鉱物科学会
	71	S	CG	EE	ハードロックドリリング～地殻からマントルまでの直接観察研究～	道林 克禎	森下 知晃	Henry JB Dick	Mark K Reagan			
	39	S	MP	EJ	変形岩・変成岩とテクトニクス	針金 由美子	河上 哲生					日本地質学会
	140	S	MP	JJ	脆性延性境界と超臨界地殻流体：島弧地殻エネルギー	土屋 範芳	浅沼 宏	小川 康雄				日本地熱学会 資源地質学会
	147	S	MP	JJ	鉱物の物理化学	大藤 弘明	鎌田 誠司					
NEW	180	S	VG	EE	Wet volcanology	並木 敦子	青木 陽介	Michael Manga				日本火山学会
NEW	199	S	VG	EE	火山分岐現象の理解	西村 太志	奥村 聡	小園 誠史				
	70	S	VG	JJ	活動的火山	前田 裕太	青木 陽介					日本火山学会
NEW	289	S	VG	JJ	1986伊豆大島噴火を読み直す、温故知新	栗田 敬	渡辺 秀文					
	135	S	VG	JJ	火山の熱水系	藤光 康宏	鍵山 恒臣	大場 武				日本地熱学会、日本火山学会、日本地球化学会
	161	S	VG	JJ	火山防災の基礎と応用	吉本 充宏	萬年 一剛	宝田 晋治	佐々木 寿			日本火山学会
	223	S	VG	JJ	火山・火成活動と長期予測	及川 輝樹	長谷川 健	三浦 大助	下司 信夫			日本地質学会 日本火山学会
	130	S	GO	EE	Volatile cycles in the Earth - from Surface to Deep Interior	羽生 毅	David R Hilton	角野 浩史	佐野 有司			
	124	S	GO	JJ	固体地球化学・惑星化学	下田 玄	鈴木 勝彦	山下 勝行	石川 晃			日本地球化学会
	157	S	GC	JJ	地球化学の最前線	鍵 裕之	横山 祐典	橋 省吾				日本地球化学会
	128	S	TT	EE	RAEG2017	三ヶ田 均	武川 順一	飯尾 能久	小川 康雄			
	138	S	TT	EJ	合成開口レーダー	宮城 洋介	小林 祥子	山之口 勤	森下 遊			日本測地学会 日本リモートセンシング学会
	159	S	TT	EJ	空中からの地球計測とモニタリング	楠本 成寿	大熊 茂雄	小山 崇夫	光畑 裕司			物理探査学会

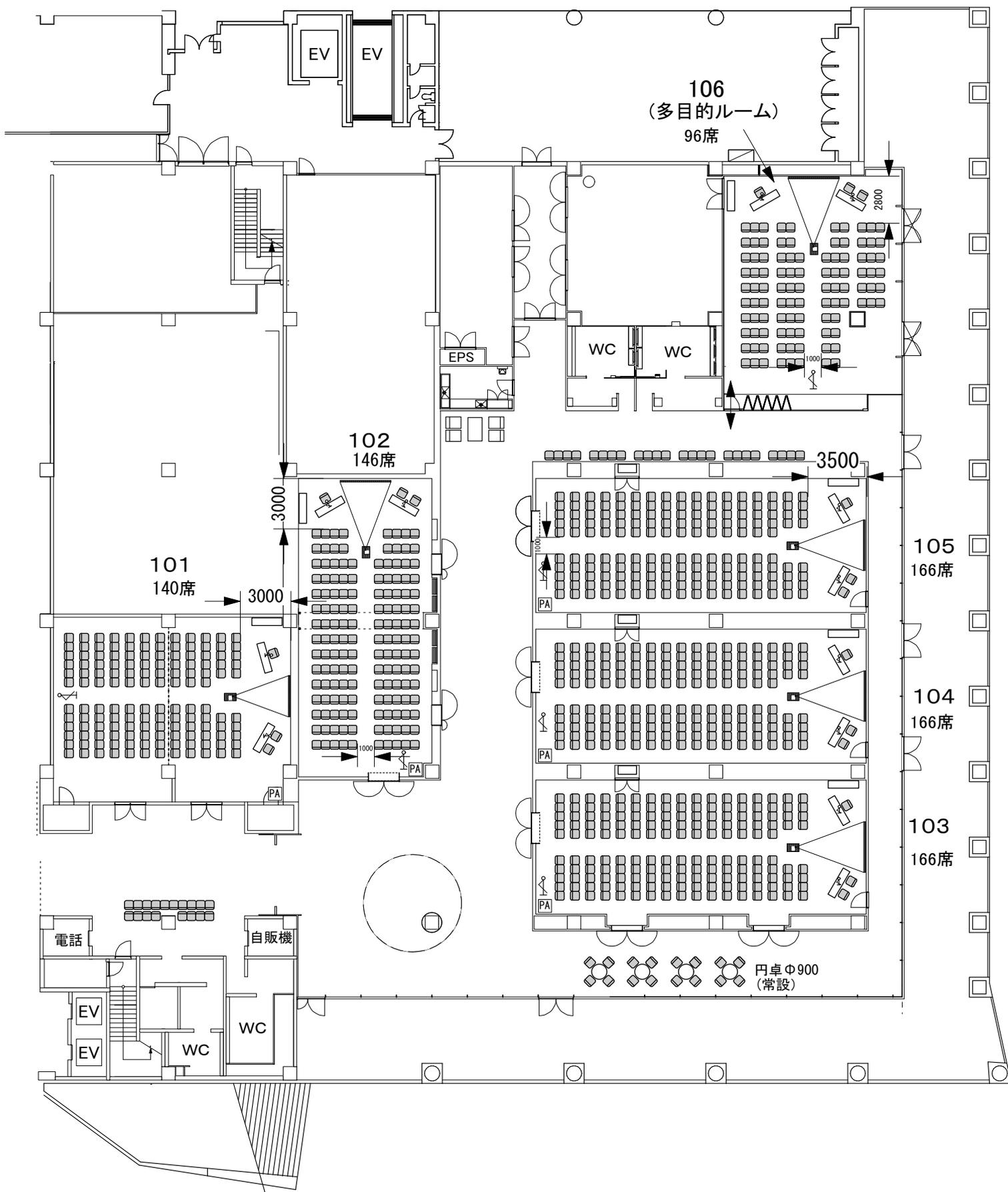
	4	S	TT	JJ	地震観測・処理システム	吉見 雅行						日本地震学会
	219	S	TT	JJ	ルミネッセンス・ESR測定年代学・地球惑星科学への貢献	伊藤 一充	豊田 新	近藤 玲介	杉崎 彩子			
	297	S	TT	JJ	ハイパフォーマンスコンピューティングが拓く固体地球科学の未来	堀 高峰	市村 強	八木 勇治	汐見 勝彦			
	37	S	CG	EE	変動帯ダイナミクス	深畑 幸俊	Robert Holdsworth	Jeanne Hardebeck	岩森 光			
	79	S	CG	EE	Morphodynamics and Genetic Stratigraphy for Understanding Landforms and Strata	成瀬 元	Steven Y. J. Lai	武藤 鉄司	Wonsuck Kim			
	244	S	CG	EE	海溝海側で海洋プレートに生じる過程:沈み込み帯へのインパクト	山野 誠	森下 知晃	藤江 剛				
NEW	95	S	CG	EE	混濁流・発生源から堆積物・地形形成まで	横川 美和	泉 典洋	Svetlana Kostic	阪口 口			
NEW	260	S	CG	EE	Integrating Seismic and Geodetic Observations for Hazard Early Warning	Linda R Rowan	山岡 耕春					日本地震学会、日本測地学会、日本火山学会、水文・水資源学会、日本大気電気学会、日本気象学会、Seismological Society of America
NEW	295	S	CG	EE	Near Surface Investigation and modeling for Fault Assessment and Hazard Mitigations	Ping-Yu Chang	ウオリス サイモン	井龍 康文				
	57	S	CG	EJ	震源域近傍強震動の成因解明と強震動予測への展開	浅野 公之	香川 敬生	司 宏俊	堀川 晴央			日本地震学会
	188	S	CG	EJ	海洋底地球科学	沖野 郷子						
	220	S	CG	EJ	地震動・地殻変動・津波データの即時把握・即時解析・即時予測	干場 充之	川元 智司	山本 直孝	田島 文子			
	3	S	CG	JJ	岩石・鉱物・資源	齊藤 哲	門馬 綱一	野崎 達生	土谷 信高			日本地質学会、日本鉱物科学会 資源地質学会
	23	S	CG	JJ	地球惑星科学におけるレオロジーと破壊・摩擦の物理	桑野 修	清水 以知子	石橋 秀巳	田阪 美樹			
	141	S	CG	JJ	地殻流体と地殻変動	小泉 尚嗣	Koji Umeda	松本 則夫	田中 秀実			
[ B ] Biogeosciences											EE: 4 / EJ: 3 / JJ: 3 / Total: 10	
	196	B	AO	EE	Astrobiology: Origins, Evolution, Distribution of Life	小林 憲正	大石 雅寿	藪田 ひかる	Kirschvink Joseph			日本アストロバイオロジーネットワーク
	121	B	BG	JJ	【Poster】地球惑星科学と微生物生態学の接点	砂村 倫成	諸野 祐樹	木庭 啓介	濱村 奈津子			日本微生物生態学会
	108	B	PT	EE	バイオミネラリゼーションと環境指標	豊福 高志	北里 洋	Bijma Jelle		EGU		
	18	B	PT	EJ	化学合成生態系の進化をめぐって	ジェンキンズ ロバート	渡部 裕美	延原 尊美	間嶋 隆一			日本古生物学会
	33	B	PT	EJ	地球史解説:冥王代から現代まで	小宮 剛	加藤 泰浩	鈴木 勝彦				
	114	B	PT	JJ	地球生命史	本山 功	生形 貴男	守屋 和佳				日本古生物学会
	189	B	CG	EE	地球惑星科学 生命圏フロンティアセッション	高野 淑識	鈴木 庸平	福士 圭介	柳川 勝紀	EGU		日本微生物生態学会
NEW	285	B	CG	EE	深宇宙と深海から挑む生命探査科学	矢野 創	Christophe Sotin	高井 研				
	158	B	CG	EJ	顕生代生物多様性の変遷:絶滅と多様化	磯崎 行雄	澤木 佑介					
	211	B	CG	JJ	生命-水-鉱物-大気相互作用	中村 謙太郎	鈴木 庸平	高井 研	上野 雄一郎			
[ G ] General (Education and Outreach)											EE: 0 / EJ: 1 / JJ: 4 / Total: 5	
	142	G	XX	EJ	【Poster】 Ocean Education in tomorrow classrooms	Chi-Min Liu						
	36	G	XX	JJ	災害を乗り越えるための「総合的防災教育」	中井 仁	宮嶋 敏	根本 泰雄	小森 次郎			
	174	G	XX	JJ	地球惑星科学のアウトリーチ	植木 岳雪	小森 次郎	長谷川 直子	大木 聖子			
	231	G	XX	JJ	小・中・高等学校の地球惑星科学教育	畠山 正恒						
	233	G	XX	JJ	大学での地球惑星科学教育	畠山 正恒						
[ M ] Multidisciplinary and Interdisciplinary											EE: 15 / EJ: 7 / JJ: 21 / Total: 43	
	80	M	IS	EE	Environmental, socio-economic and climatic changes in Northern Eurasia	Groisman Pavel	Shamil Maksyutov	Kukavskaya Elena	Qiuhong Tang			
	109	M	IS	EE	火山噴煙・積乱雲のモデリングとリモートセンシング	佐藤 英一	鈴木 雄治郎	前野 深	前坂 剛			日本火山学会
	181	M	IS	EE	Future Earth - Implementing Integrated Research for Sustainable Future	水見山 幸夫	春日 文子	高橋 嘉夫	谷口 真人			
	217	M	IS	EE	Interdisciplinary studies on pre-earthquake processes	服部 克巳	劉 正彦	Ouzounov Dimitar	Qinghua Huang			
	294	M	IS	EE	Thunderstorms and lightning as natural hazards in a changing climate	佐藤 光輝	Yoav Yair					日本大気電気学会
	106	M	IS	EE	アジア・モンスーンの進化と変動、新生代寒冷化との関係	多田 隆治	Christian Betzler	Peter Dominic Clift				地球環境史学会
NEW	125	M	IS	EE	Conservation of natural geosites and cultural heritages: weathering process and damage assessment	小口 千明	Akos Torok	Magdalini Theodoridou	Richard P?ikryl	EGU		日本地質学連合
NEW	209	M	IS	EE	Living on the edge! Geodynamics, Tectonics and Paleogeography of East Asia during the Phanerozoic	Daniel Pastor-Gal?n	辻森 樹	磯崎 行雄	Uyanga Bold	EGU		日本地質学会
	110	M	IS	EJ	津波堆積物	篠崎 鉄哉	千葉 崇	石村 大輔	後藤 和久			
	146	M	IS	EJ	南大洋・南極氷床が駆動する全球気候変動	大島 慶一郎	池原 実	川村 賢二				
	195	M	IS	EJ	結晶成長・溶解における界面・ナノ現象	木村 勇氣	三浦 均	塚本 勝男	佐藤 久夫			
	63	M	IS	JJ	地震・火山等の地殻活動に伴う地圏・大気圏・電離圏電磁現象	児玉 哲哉	芳原 容英	長尾 年恭				日本地震予知学会
	94	M	IS	JJ	山岳地域の自然環境変動	鈴木 啓助	苅谷 愛彦	佐々木 明彦				
	133	M	IS	JJ	ジオパーク	藁谷 哲也	平松 良浩	松原 典孝	尾方 隆幸			日本地震学会、日本第四紀学会、日本地質学連合、 日本地質学会、日本地理学会、日本火山学会
	134	M	IS	JJ	地球流体力学:地球惑星現象への分野横断的アプローチ	伊賀 啓太	吉田 茂生	柳澤 孝寿	相木 秀則			
	201	M	IS	JJ	ガスハイドレートと地球環境・資源科学	戸丸 仁	八久保 晶弘	森田 澄人	谷 篤史			
	229	M	IS	JJ	海底マンガン鉱床の科学:基礎から応用まで	臼井 朗	高橋 嘉夫	伊藤 孝	鈴木 勝彦			

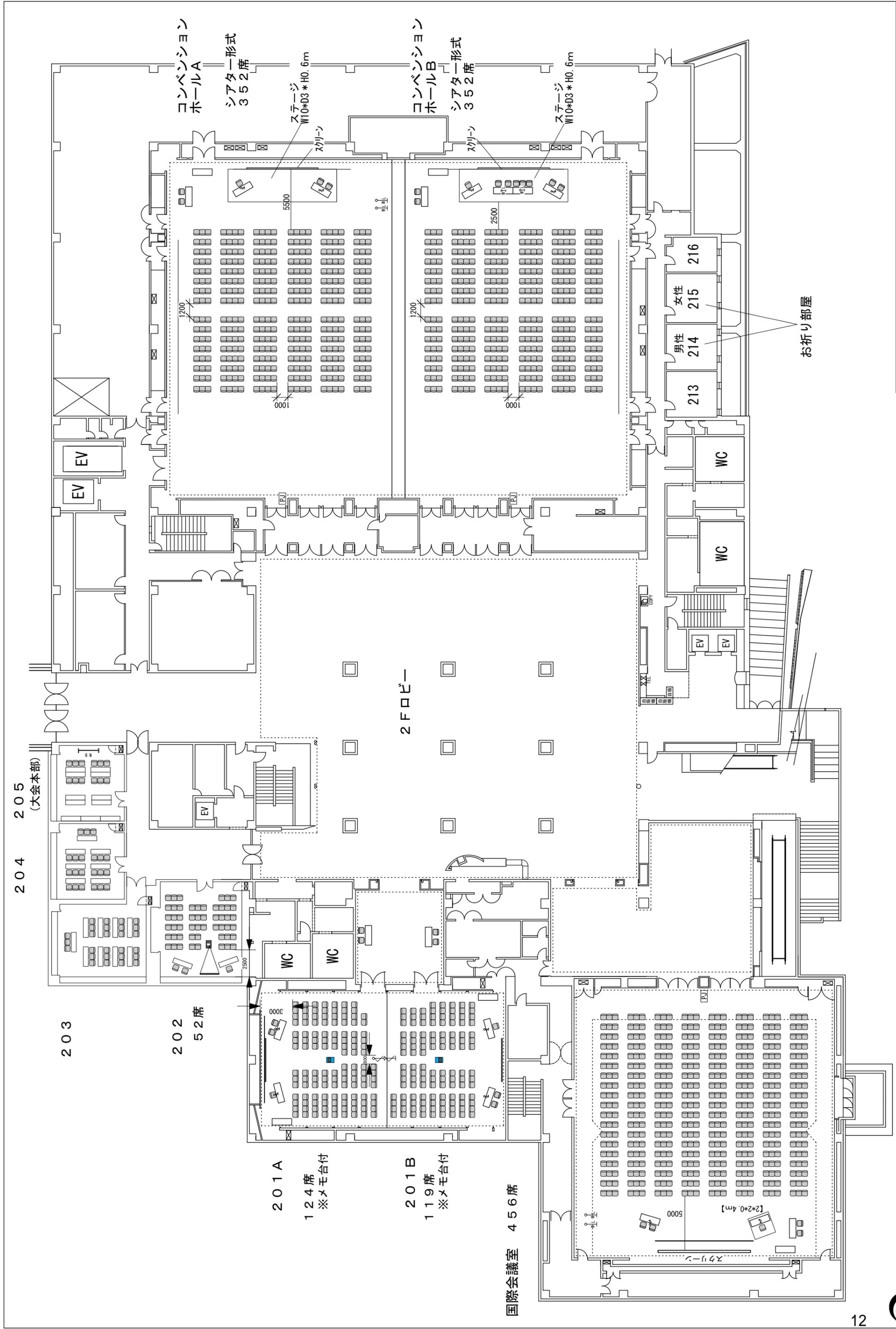
	238	M	IS	JJ	大気電気学	鴨川 仁					日本学会議	日本大気電気学会
	241	M	IS	JJ	生物地球化学	楊 宗興	柴田 英昭	大河内 直彦	山下 洋平			日本海洋学会 生物地球化学研究会
	252	M	IS	JJ	遠洋域の進化	松岡 篤	栗原 敏之	尾上 哲治	木元 克典			形の科学会
	288	M	IS	JJ	南北両極のサイエンスと大型研究	中村 卓司	杉本 敦子	杉山 慎				
	53	M	IS	JJ	地球掘削科学	山田 泰広	道林 克禎	池原 実	菅沼 悠介			
	129	M	IS	JJ	古気候・古海洋変動	入野 智久	岡 顕	北場 育子	佐野 雅規			地球環境史学会
NEW	74	M	IS	JJ	海底～海面を貫通する海域観測データの統合解析	有吉 慶介	木戸 元之	稲津 大祐	高橋 成実			
NEW	204	M	IS	JJ	熊本地震から学ぶ活断層と地震防災	鈴木 康弘	藤原 広行	久田 嘉章	釜井 俊孝			
NEW	228	M	IS	JJ	水惑星学	関根 康人	渋谷 岳造	玄田 英典	福士 圭介			
	256	M	GI	EE	Open Science with Research Data Sharing and Science Infrastructures for Earth & Planetary Sciences	村山 泰啓	Cecconi Baptiste					
NEW	296	M	GI	EE	Challenges of Open Science: Hiding our data under a bushel.	Toczko Sean						Coalition for Publishing Data in the Earth and Space Sciences (COPDESS), Research Data Alliance (RDA)
NEW	49	M	GI	EE	Data assimilation: A fundamental approach in geosciences	中野 慎也	藤井 陽介	宮崎 真一	三好 建正			日本海洋学会, 日本気象学会 データ同化研究連絡会, 地球電磁気・地球惑星 圏学会
	59	M	GI	EJ	データ駆動地球惑星科学	桑谷 立	Kondrashov Dmitri	長尾 大道	Sergey Kravtsov			
	123	M	GI	JJ	情報地球惑星科学と大量データ処理	村田 健史						日本情報地質学会
	242	M	GI	JJ	ソーシャルメディアと地球惑星科学	天野 一男	小口 高	伊藤 昌毅	山本 佳世子			
	275	M	GI	JJ	計算科学による惑星形成・進化・環境変動研究の新展開	林 祥介	小河 正基	井田 茂	草野 完也			
NEW	178	M	AG	EE	Satellite Land Surface Reflectance at Medium/High Resolution: Algorithms, Validation & Applications	Jean-Claude Roger	Eric Vermote	祖父江 真一	Ferran Gascon			
NEW	304	M	AG	EJ	福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態	北 和之	恩田 裕一	五十嵐 康人	山田 正俊			
NEW	164	M	AG	EJ	海洋地球インフォマティクス	坪井 誠司	高橋 桂子	金尾 政紀	Timothy Keith Ahern			
	137	M	SD	JJ	宇宙食と宇宙農業	片山 直美						
	93	M	TT	EE	Cryoseismology – a new proxy for detecting surface environmental variations of the Earth –	豊国 源知	金尾 政紀	坪井 誠司	Douglas Wiens			
	162	M	TT	EE	統合地球観測システムとしてのGPS/GNSSの新展開	小司 禎教	加藤 照之	太田 雄策	瀬古 弘			日本測地学会
	284	M	TT	JJ	インフラサウンド及び関連波動が繋ぐ多圏融合地球物理学の新描像	山本 真行	新井 伸夫	市原 美恵				
NEW	72	M	ZZ	EE	Sustainable global groundwater management for human security	Yoshihide Wada	谷口 真人	Naota Hanasaki	Yadu N Pokhrel			日本地下水学会
NEW	262	M	ZZ	EJ	リスクコミュニケーションの未来 – 科学情報を社会にどう伝えるか	平田 直	Schorlemmer Danijel	木村 玲欧	大友 章司			
	29	M	ZZ	JJ	地球科学の科学史・科学哲学・科学技術社会論	矢島 道子	山田 俊弘	青木 滋之	吉田 茂生			

	提案数
AGU代表コンビーナ	35
AGUコンビーナ参加セッション	48
新規提案セッション	88
EEセッション	116
EJセッション	45
JJセッション	105
合計提案数	266

2017 大会部屋割り案

国際会議場		
1F		
1	101	140
2	102	146
3	103	166
4	104	166
5	105	166
6	106	96
2F		
7	201A	124
8	201B	119
9	202	52
	203	—
	204	—
	205	—
10	国際会議室	456
11	コンベンションホール A	352
12	コンベンションホール B	352
3F		
13	301A	88
14	301B	122
15	302	154
16	303	154
17	304	134
APA ホテル 宴会棟 2F		
1	A01	120
2	A02	120
3	A03	120
4	A04	120
5	A05	120
	A06・・・不使用（休憩所）	—
6	A07	120
7	A08	120
8	A09	120





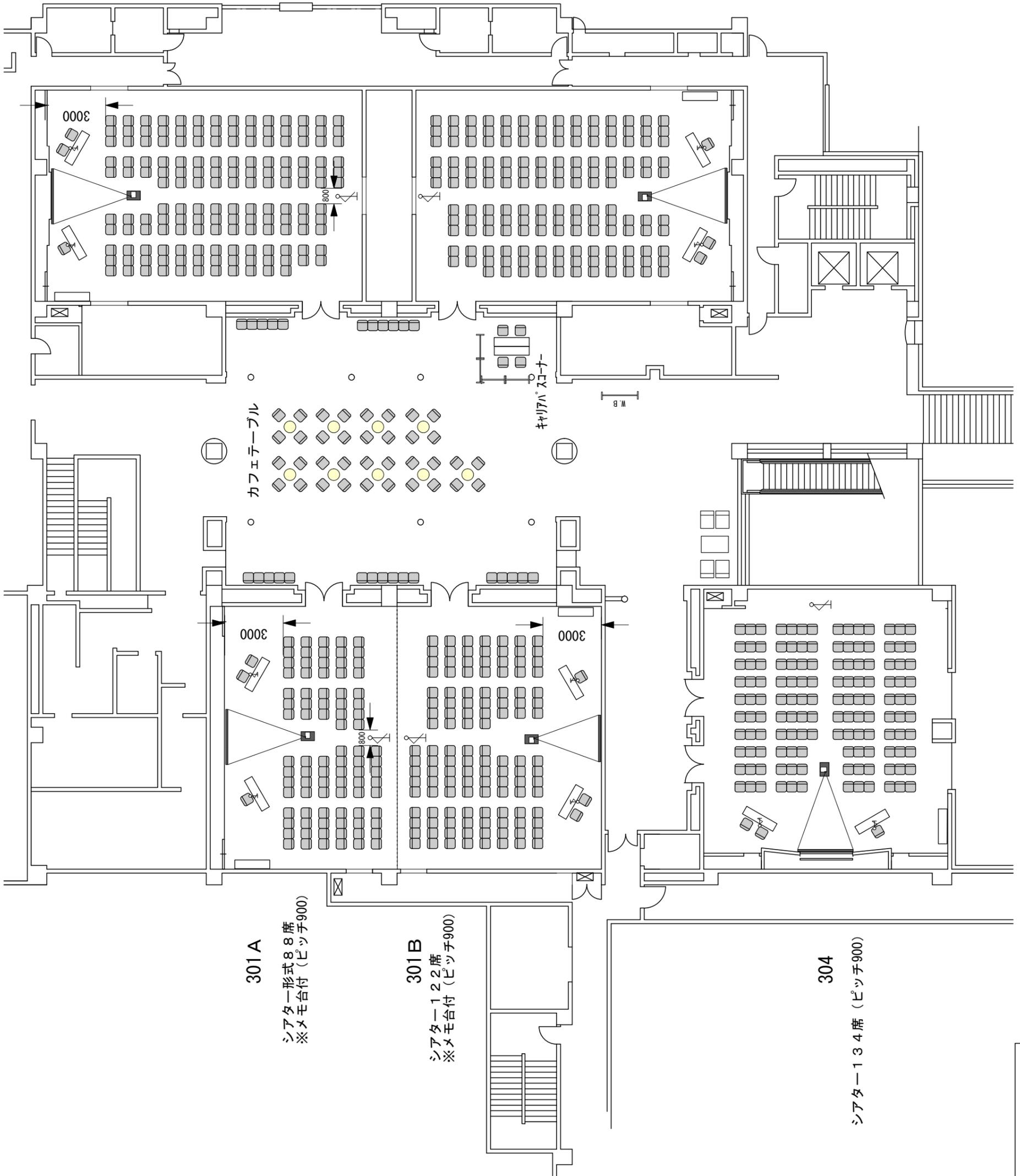
302  
シアター154席 (ピッチ900)

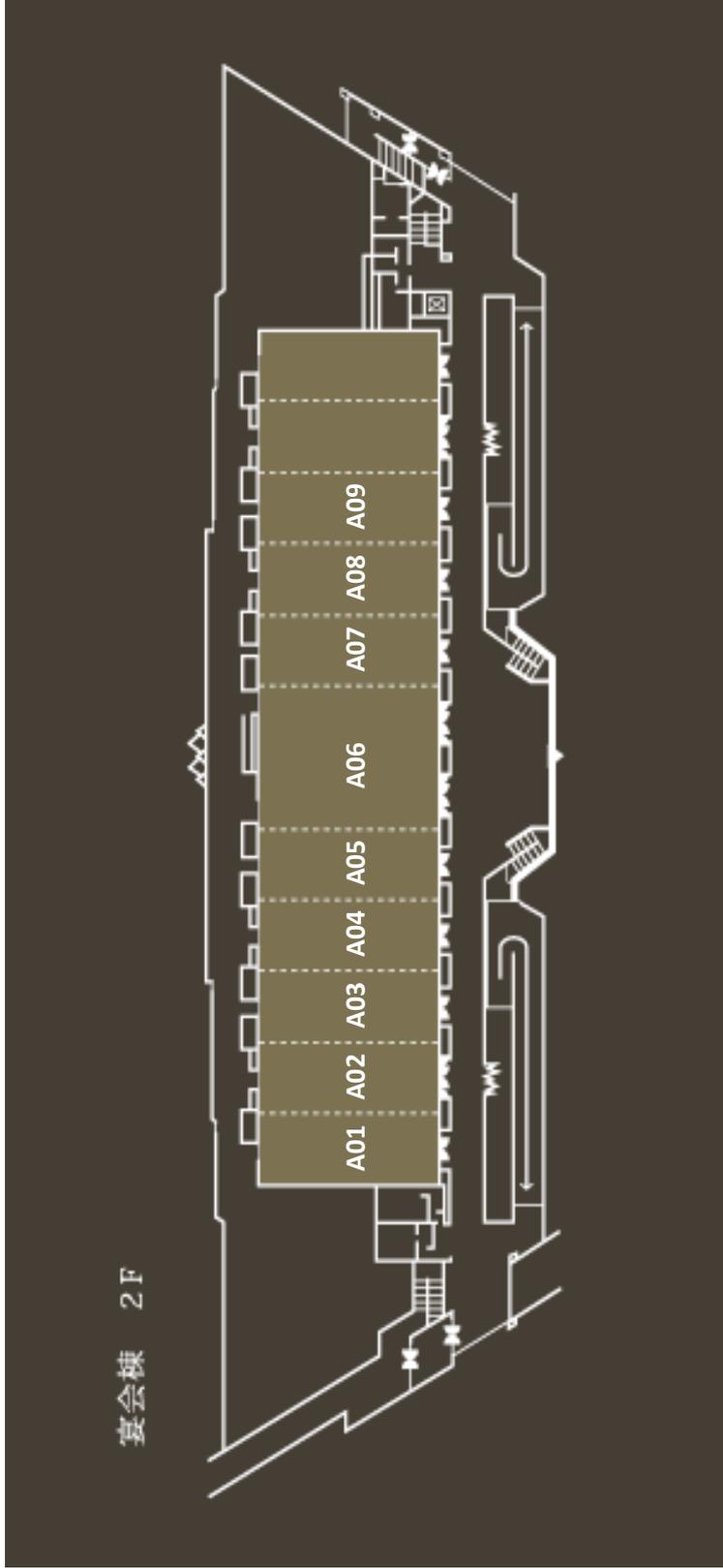
303  
シアター154席 (ピッチ900)

301A  
シアター形式88席  
※メモ台付 (ピッチ900)

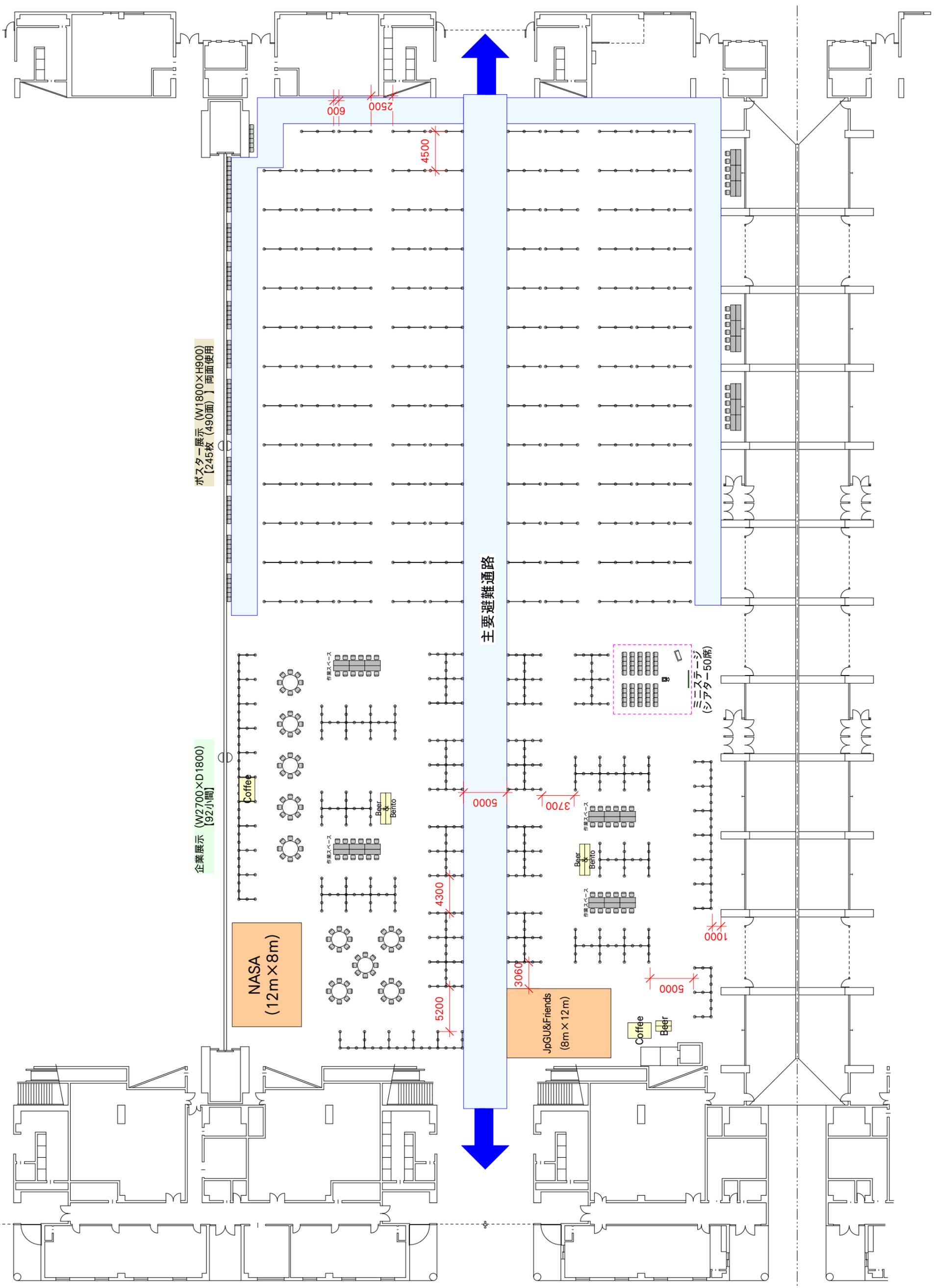
301B  
シアター122席  
※メモ台付 (ピッチ900)

304  
シアター134席 (ピッチ900)





※ A06 is not available as a conference room



2016年10月25日 JpGU 学協会長会議資料(ジャーナル)

- 10/17 現在、計 106 本の論文が出版されている。無料で download できるので、日本語 Abstract サイトなどで興味のある論文を探していただき、ゼミで活用したり、次の論文に引用していただきたい。  
([http://progearthplanetsci.org/highlights\\_j.php](http://progearthplanetsci.org/highlights_j.php))

■ 出版状況 (2016/10/17)

	Total			
	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total
1. Space and planetary sciences	10 9.9%	7 6.9%	0 0.0%	17 16.8%
2. Atmospheric and hydrospheric sciences	5 5.0%	10 9.9%	0 0.0%	15 14.9%
3. Human geosciences	0 0.0%	5 5.0%	0 0.0%	5 5.0%
4. Solid earth sciences	9 8.9%	36 35.6%	2 2.0%	47 46.5%
5. Biogeosciences	2 2.0%	5 5.0%	0 0.0%	7 6.9%
6. Interdisciplinary research	5 5.0%	4 4.0%	1 1.0%	10 9.9%
<b>Subtotal</b>	<b>31</b> <b>30.7%</b>	<b>67</b> <b>66.3%</b>	<b>3</b> <b>3.0%</b>	<b>101</b> <b>100%</b>
Editorial/Correction	-	-	-	4 1
<b>Total</b>				<b>106</b>

- トムソン・ロイター(10月より Clarivate Analytics 社に売却/インパクト・ファクター IF)とエルゼビア(Scopus)に対し、ジャーナル評価指標取得のために、8月に IF、9月に Scopus の採録申請を行った。順調に受理されれば 2018 年に付与される予定。
- 連合大会では、PEPS への投稿を前提とした特別セッションに外国人招待者の旅費支援を行っているが、国内で開催される国際会議においても、同様な活動を行っている。旅費支援が必要な 2017 年度開催の国際会議があったら、事務局(peps\_edit@jpgu.org)か編集長に連絡を。
- 学術会議からの要請により、「PEPS Authorship guidelines」を作成し、HP 上で公開した。
- 理事会にて、新規編集委員・ジャーナル企画経営拡大委員が報告され、承認された。編集委員が不足している分野もあるので、編集委員補強の際は学協会長にも協力をお願いしたい。
- セクション・プレジデントの改選に伴い、新セクション・プレジデントにジャーナル企画経営拡大委員の就任を依頼する。
- トムソン・ロイターの日本支社を訪れ、現在の出版会周辺の活動に関する情報を得た。また、科学研究費補助金(研究成果公開促進費)に関して、日本学術振興会を訪れ、個別相談会に出席した。

資料: Progress in Earth and Planetary Science (PEPS) 出版・投稿状況 (2016/10/17 現在)

■出版状況 (2016/10/17)

	2014				2015				2016				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate/Prefac	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total
1. Space and planetary sciences	2	1	0	3	6	5	0	11	2	1	0	3	10	7	0	17
2. Atmospheric and hydrospheric sciences	2	5	0	7	2	3	0	5	1	2	0	3	5	10	0	15
3. Human geosciences	0	2	0	2	0	2	0	2	0	1	0	1	0	5	0	5
4. Solid earth sciences	2	9	0	11	4	16	0	20	3	11	2	16	9	36	2	47
5. Biogeosciences	1	0	0	1	1	3	0	4	0	2	0	2	2	5	0	7
6. Interdisciplinary research	0	1	0	1	2	2	0	4	3	1	1	5	5	4	1	10
Subtotal	7	18	0	25	15	31	0	46	9	18	3	30	31	67	3	101
	28.0%	72.0%	0.0%	100%	32.6%	67.4%	0.0%	100%	30.0%	60.0%	10.0%	100%	30.7%	66.3%	3.0%	100%
Editorial/Correction	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
Total				29				46				31				106

■投稿状況 (2016/10/17)

	~2014				2015				2016				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate/Prefac	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total
1. Space and planetary sciences	8	9	0	17	3	8	1	12	1	6	0	7	12	23	1	36
2. Atmospheric and hydrospheric sciences	5	7	0	12	3	8	0	11	1	9	0	10	9	24	0	33
3. Human geosciences	1	4	0	5	0	4	0	4	0	5	0	5	1	13	0	14
4. Solid earth sciences	3	17	1	21	10	23	2	35	1	16	1	18	14	56	4	74
5. Biogeosciences	2	3	0	5	0	3	0	3	0	2	0	2	2	8	0	10
6. Interdisciplinary research	2	5	0	7	5	4	0	9	0	4	1	5	7	13	1	21
Subtotal	21	45	1	67	21	50	3	74	3	42	2	47	45	137	6	188
	31.3%	67.2%	1.5%	100%	28.4%	67.6%	4.1%	100%	6.4%	89.4%	4.3%	100%	23.9%	72.9%	3.2%	100%
Editorial/Correction	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	0	-	-	-	4
Total				71				75				47				193

■編集状況 (2016/10/17 現在)

	Review	Resarch	Methodology /Debate /Preface	Subtotal	Editorial + Correction	Total
Published	31	67	3	101	5	106
Accepted including Provisionally-accepted	1	4	0	5	0	5
Under review	1	19	0	20	0	20
Rejected/Withdrawn	11	48	3	62	0	62
Total	44	138	6	188	5	193
	23.4%	73.4%	3.2%	100.0%	-	-

## 報告事項 団体会員に関する定款及び関連規則変更の検討状況報告

平成 27 年度 定時社員総会(平成 27 年 5 月 27 日開催)

議事録より

第 2 号議案 法人運営基本規程第 3 条(団体会員の入会基準)改正の件

議長の指名により、会長津田敏隆氏から、法人運営基本規程第 3 条の改正について説明があった。連合の団体会員の入会基準を「地球惑星科学に関わる活動実績を有する「日本学術会議協力学術研究団体」に登録された学術研究団体、又はこれに準ずる学術研究団体で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する団体」と改正することを諮ったところ、社員の賛成多数により承認された。

第 13 回学協会長会議(平成 27 年 10 月 8 日開催)

議事録より

(4) 法人運営基本規程第 3 条改正について

法人運営基本規程第 3 条の改正について、津田会長より報告があった。平成 27 年度定時社員総会(5 月 27 日)にて改正された。連合の団体会員の入会基準を、「地球惑星科学に関わる活動実績を有する「日本学術会議協力学術研究団体」に登録された学術研究団体、又はこれに準ずる学術研究団体で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する団体」と改正した。

これは第 11 回学協会長会議(平成 26 年 10 月 16 日)にて報告があったとおり、内閣府公益認定等委員会事務局からの二点の指摘のうち一点に基づく改正である。

もう一点の指摘についても検討している。すなわち「連合の社員(代議員)は、正会員により選出された代議員(選出代議員)と団体会員(加盟学協会)の代表(団体代議員)により構成されるが、正会員によっては、自身が加盟する学協会の代表の選出を通じて二重に連合の意志決定に参画できることになり、公平性に欠けるのではないか」という指摘である。これについての意見交換を行った。

現状の規則や制度の中での公平性を十分に説明できれば、現在の体制が認められるのではないかという意見、仮に体制を変更することになった場合の団体会員の意見の反映のための制度についての意見など、様々な意見が挙げられた。引き続き、連合理事会でも議論を続けてゆく。

日本地球惑星科学連合第4回理事会（平成27年10月26日開催）

議事録より

(1) 津田敏隆代表理事職務報告

津田代表理事より、連合全体の活動について報告があった。

10月16日(金)に開催された経営企画会議についての報告があった。中でも、かねてより内閣府公益認定等委員会から指摘を受けている連合の社員構成の件についての検討状況が報告され、当理事会でも意見交換を行った。今後も充分検討する必要があるとした。

日本地球惑星科学連合第5回理事会（平成28年1月28日開催）

議事録より

(1) 津田敏隆代表理事職務報告

津田代表理事より、社員の体制に関する検討について報告があった。

前回理事会までの議論を踏まえ、現在の団体会員を社員とする体制を変更する場合の新たな体制、理事会との関わり方の検討や、学協会長会議幹事会(仮)の設置について提案があり、意見交換を行った。将来的な定款の改定を伴う体制の変更に向け、今後更に検討してゆくこととなった。

日本地球惑星科学連合第6回理事会（平成28年3月10日開催）

議事録より

(1) 津田敏隆代表理事職務報告(抜粋)

団体会員について、これまでの議論に基づき、定款および規則の変更箇所を議論した。

社員構成では団体会員を除き、選出代議員のみで構成することが議論された。今後、社員(代議員)の定数を検討する必要がある。また、学協会長会議の位置づけと、社員総会と理事会との協調関係についてさらに検討を加える必要がある。この提案を次回の社員総会で紹介し、次々回の社員総会で定款の改訂を目指す。

### 第 14 回学協会長会議（平成 28 年 5 月 23 日開催）

議事録より

#### 3. 団体会員に関する定款および関連規則の変更について(津田会長)

団体会員に関する定款および関連規則の変更に関して、昨年度定時社員総会以降の検討状況について津田敏隆会長から説明がなされた。引き続き理事会にて検討し、来年度の定時社員総会にて定款及び関連規則の変更を議事として諮ることを予定している旨の報告があった。

具体的には、団体会員について、社員としてではなく別の形で連合の運営に関わるよう変更することを検討している。その一案として、理事会との連携強化に向け、従来の学協会長会議に加え、**学協会長会議幹事会(仮称)**の設置とその具体的な開催を出席者に諮り、ともに了承された。

### 平成 28 年度 定時社員総会（平成 26 年 5 月 23 日開催）

議事録より

#### 報告事項(3) 団体会員に関する定款及び関連規則変更の検討状況報告

議長の指名により、津田敏隆会長から、現行定款において代議員及び団体会員をもって本法人の社員としていることを、将来的に代議員のみを社員とすることについて、昨年度定時社員総会以降の検討状況について説明がなされた。引き続き理事会にて定款及び関連規則の変更について検討し、来年度の定時社員総会にて議事として諮ることを予定している旨、報告があった。

### 日本地球惑星科学連合第4回理事会（平成 28 年 9 月 30 日開催）

議事録より

#### 第 5 号議案「団体社員の体制および規則」について

2017 年の社員総会で定款の改定を議事として諮ることを予定している。それに向けての準備として、次回(10 月 25 日開催予定)学協会長会議に提出する、定款の改定案、それに付随する基本規定の改定案、社員総会で定める必要のある代議員数、及び学協会長会議規則等について検討した。

また、新規に設置予定の学協会長会議幹事会に関して、構成及び任務等について議論された。これらについては、次回、学協会長会議で説明し、2017 年の学協会長会議で了承を受けた上で、2017 年の社員総会に提出する。なお、代議員数の案については、150名として学協会長会議に提案することとなった。

## 公益社団法人日本地球惑星科学連合定款（抜粋）

（法人の構成員）

**第7条** この法人に次の会員を置く。

- (1) 正会員 この法人の目的及び事業に賛同して入会した地球惑星科学に関わる又は関心を持つ個人
- (2) 団体会員 この法人の目的及び事業に賛同して入会した地球惑星科学に関わる  
学術 研究団体
- (3) 賛助会員 この法人の事業を賛助するため入会した個人又は団体
- (4) 名誉会員 この法人に功労のあった者又は学識経験者で社員総会において推薦された者

2 この法人は、正会員の中から選出された代議員及び団体会員をもって、公益社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下、「法人法」という。）上の社員とする。

（代議員の定数、選出方法、任期及び欠員措置）

**第11条** 代議員の定数は、80名以上200名以内で社員総会において別に定める数とする。

（構成）

**第27条** 社員総会は、団体会員及び全ての代議員をもって構成する。

2 社員総会における議決権は、団体会員及び代議員いずれも1名につき1個とする。

## 第6章 学協会長会議

（設置等）

**第48条** この法人は、団体会員の代表者を委員とする学協会長会議を設ける。

2 学協会長会議は、理事会の諮問に応え、理事会に対し、意見を述べることができるとともに、理事会の承認のもと、その名において対外的な意見の表明ができる。

## 法人運営基本規程（抜粋）

（代議員の定数）

第 6 条 代議員の定数は、150 名とする。理事会の定めにより別に設ける代議員の選出のための正会員による選挙の日を公示した日（以下「選挙公示日」という。）の前日における団体会員の数の 2 倍とする。

（社員の出席）

第 15 条 代議員たる社員は、自ら又は他の代議員たる社員を代理人に選任して、社員として社員総会に出席する。

2 団体会員たる社員は、代表者自ら若しくはその団体の役員、会員、社員若しくは使用人を指定して又は代議員たる社員を代理人に選任して、社員総会に出席する。

2 社員総会の招集通知は、定時総会にあっては 4 月末日現在、臨時社員総会にあってはその開催日の 3 週間前の時点での社員名簿の登録に従って発すれば足りるものとする。

3 社員総会に出席する代議員者は、会場の受付にて、次のとおり、その出席資格の確認を受けなければならない。

(1) 代議員たる社員本人が出席する場合には、本人であること

(2) 代議員たる社員又は団体会員の代理人として出席する場合には、委任状等の提出によりその代理権を有する者であること

(3) 団体会員たる社員の代表者が出席する場合には、その団体の代表者本人であること

(4) 団体会員から指定を受けた役員又は使用人として出席する場合には、その旨の書面により、その団体から指定を受けた者であること

4 代理人欄が空欄の委任状が提出された場合には、社員総会の議長が選任されたものとみなす。

## 法人運営基本規則（抜粋）

### 第 8 章 学協会長会議

（任期等）

第 15 条 学協会長会議の委員は、団体会員の登録代表者が就任し、登録代表者の交代に伴い委員も当然に交代するものとする。

2 学協会長会議の議長は、委員の互選により選出する。

3 委員本人がやむを得ず出席できない場合には、団体会員にあってこれに準ずる立場の者が委員本人に代わって出席できるものとする。

## 団体社員の体制変更と定款改正のスケジュール

- (1) 団体社員の体制を変更し、選出代議員のみを社員とする。選出代議員定数を変更する。
- (2) 学協会長会議幹事会を発足させ、理事会と学協会との連携を強化する。

日程	会議名	審議内容
平成28年(2016年) 5月23日 (大会時)	第14回学協会長会議	・団体社員の体制変更について検討
	定時社員総会	・団体社員の体制変更について説明 (翌年の定款改訂を確認) ・新役員の選任
	第1回理事会	・代表理事の選任
9月30日	第4回理事会	
10月25日	第15回学協会長会議	・団体社員の体制変更を再確認 ・学協会長会議幹事会の設置を検討 (幹事会メンバーをノミネートする)
平成29年(2017年) 3月	第7回理事会	・社員総会議事の確認 → 学協会長会議から意見を求める (幹事会メンバーはオブザーバ出席)
5月初旬	第8回理事会	・社員総会議事の確定 (団体会員の体制変更の定款改訂を確認)
(大会時)	第16回学協会長会議	・社員総会議事の説明 ・学協会長会議幹事会の設置を審議
	定時社員総会	・定款の改訂 (団体社員の体制変更)

## 学協会長会議規則（案）

### （趣旨）

第1条 この規則は、定款及び法人運営基本規則に基づき、学協会長会議に関し必要な事項を定めるものとする。

### （任務）

第2条 学協会長会議は、理事会の諮問に応え、理事会に対し、意見を述べることができるとともに、理事会の承認のもと、その名において対外的な意見の表明ができる。【←定款第48条の再掲】

### （任期等）

第3条 学協会長会議の委員は、団体会員の登録代表者が就任し、登録代表者の交代に伴い委員も当然に交代するものとする。

2 学協会長会議の議長は、委員の互選により選出する。

3 委員本人がやむを得ず出席できない場合には、団体会員にあつてこれに準ずる立場の者が委員本人に代わって出席できるものとする。【←法人運営基本規則第15条の再掲】

### （会議の下に置く組織）

第4条 学協会長会議のもとに幹事会を置く。幹事会は、加盟学協会の意見を集約し、理事会と加盟学協会との情報共有をはかる。

2 幹事会の長は、学協会会議議長とする。監事会の長は、学協会長会議の委員の中から、セクションや分野の偏りを考慮して、5名以内の監事会メンバーを選任する。当連合の理事・幹事は監事会メンバーとなることはできない。

3 幹事会のメンバーの任期は、学協会長会議の委員の任期による。ただし、団体会員の登録代表者の交代に伴い交代した幹事会メンバーは、幹事会の長の求めにより幹事会にオブザーバ出席することができる。

## 学協会長会議幹事会の運営に関する申し合わせ（案）

### （趣旨）

第1条 この申し合わせは、日本地球惑星科学連合（以下、「連合」と言う。）の学協会長会議規則に基づき、学協会長会議幹事会（以下、「幹事会」と言う。）の設置と運営に関し必要な事項を定めるものとする。

### （幹事会の開催）

第2条 幹事会は、学協会長会議に先立ち開催するほか、幹事会の長が必要と認めた場合に開催するものとする。

### （幹事会の役割）

第3条 幹事会は、以下の事項等について、加盟学協会の意見を集約し、理事会へ意見を述べる。

1. 連合の活動や制度、方針について
2. 学協会と連合の将来像と相互の協力体制について
3. 国の重要課題等に対する連合の意見の集約と提言の発出について
4. その他、学協会からの連合への要望について

### （理事会へのオブザーバ出席）

第4条 幹事会メンバーは、理事会にオブザーバ出席し、加盟学協会との情報共有をはかる。

## 日本学術会議報告

地球惑星科学委員会委員長 大久保修平

日本学術会議は、2016年10月6日-7日に172回総会を開催し、同じ期間に第三部会（理工学）を開催した。なお、第三部会は夏季部会として2016年8月2日～3日に豊橋市で開催されている。また、地球惑星科学委員会は2016年7月29日に委員会を開催した。また、学術会議第三部会と学協会との意見交換会が2016年6月24日に開催された。これらの会議で話題となった事項につき、以下で概説する。

## (1) 大型研究計画

大型研究計画のうち、とくに緊急性・重要度の高い「重点大型研究」（全分野で30課題程度）の選考がすすめられ、2016年9月17～19日に候補に残った64課題のヒアリングが行われた。ヒアリング対象課題や審査員等の情報は、すでに学術会議のWEB上で公開されている

(<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/ogata/>)。全ての結果は、2017年2月ごろに提言としてとりまとめられて、公表の予定である。

## (2) 防衛装備庁の安全保障技術推進制度\*に対する対応。

学術研究の基盤的経費が年々削減される中、新たな競争的資金制度が、平成27年度から防衛装備庁によって運用されている。同庁のプログラムディレクターの監督のもとに、大学や独立行政法人の研究者が1件当たり3,000万円以内の研究費を受給し、研究をすすめるものである。予算規模は平成28年度は総額3億円であったが、平成29年度は20億円となっている。この制度に研究者が応募することを認めるかどうかは法人単位で対応が異なっており、学術会議としての立場を明確にすることが求められている。本年5月に「安全保障と学術に関する検討委員会」において検討を開始し、2017年9月末までには見解が発表される見込みである。また、2017年連合大会では、連合と学術会議の共催のユニオンセッションとして、この問題を取りあげるよう提案を行った。

\*装備品の適用面から着目される大学、独立行政法人の研究機関や企業等における独創的な研究を発掘し、将来有望な研究を育成するために、平成27年度からスタートした競争的資金制度。

## (3) 次期の会員・連携会員の選考

24期（2017年10月～2020年9月）の会員・連携会員の選考がまもなく始まる。具体的には、現会員・連携会員が候補者を推薦し、その中から、選考委員会が次期会員・連携会員を選出する。また、学術会議協力学術研究団体に認定されている学協会には、参考情報の提供をお願いすることになっている。地域的な偏りを小さくすることや、閣議決定に基づく女性比率30%目標、企業等からの選出にも配慮することとしている。なお、同一人に対する推薦件数の多寡は、選考には全く影響を及ぼさないことに留意し、有資格者を広くノミネートしていただきたい。

#### (4) 電子ジャーナル問題

学術雑誌の電子ジャーナル化により、私たちの研究上の利便性は大きく向上し、もはや、これなしでは研究を進めることは不可能である。その反面、購読費の高騰により、地球惑星科学系の大学・法人図書館から重要学術誌にオンラインアクセスができない組織が全体の 1/3 を占め、財政状況の悪化がそれに拍車をかけつつある (JGL, Vol. 12, No. 1, pp. 6-7, 2016) 。この憂慮すべき事態について、地球惑星科学委員会として学術会議に問題提起を行ったところ、他分野からも非常に大きな反響を呼び、学術会議として取り組むべき 2 課題の一つに設定された。関係省庁や総合科学技術・イノベーション会議等を巻き込んで、公開シンポジウムを開催するなどして、問題を社会一般に強く訴えかけることが検討されている。

なお、ナショナルライセンスについては、フランスのみの対応に止まっているが、バックナンバーについては対応している国が複数あることが分かってきた。

#### (5) 原発事故等による放射性物質の移流・拡散

原発事故時の緊急対応に、放射性物質の移流・拡散予測を活用する技術的可能性に関するシンポジウムを、2017 年前半に開催する方向で、調整を進めている。これは、地球惑星科学委員会の提言 (H26. 9. 30) 「これからの地球惑星科学と社会の関わり方について—東北地方太平洋沖地震・津波・放射性物質拡散問題からの教訓」のフォローアップの一貫でもある。

#### (6) 分科会の活動

提言(案) 「我が国の地球衛星観測のあり方について」が、地球・惑星圏分科会 地球観測小委員会 (佐藤薫小委員長) によって、取りまとめられつつある。また、人材育成分科会に地理・地学教育用語検討小委員会を設置し、教育現場に見られる用語の混乱(例：初期微動継続時間、P-S 時間、PS 時)に、JpGU と連携して対応することとした。

## 日本気象学会「原子力関連施設の事故に伴う放射性物質拡散に関する作業部会」の活動について（抜粋）

2011.5. 気象学会春季大会後、同作業部会を設置(理事長直属)

2012.3.5 「原子力関連施設の事故発生時の放射性物質拡散への対策に関する提言」を公表

2013.6.21 日本学術会議公開シンポジウム「科学・公益・社会—情報発信のあり方を考える—」（不確実性を含む予測情報を原子力防災にどのように役立てるか？）2014.3 「学術の動向」に寄稿

2014 東京電力福島第一原子力発電所事故によって環境中に放出された放射性物質の輸送沈着過程にかんするモデル計算結果の比較（日本学術会議、総合工学委員会、原子力事故対応分科会）

2014.12.17 「原子力関連施設の事故に伴う放射性物質の大気拡散に関する数値予測情報の活用策について」および「原子力関連施設の事故に伴う放射性物質の大気拡散監視・予測技術の強化に関する提言」を公表

2015.3.31 原子力規制庁の意見照会に対して「原子力災害対策指針及び関係する原子力規制委員会規則の改正に関する意見」を提出

2015.5.28 地球惑星科学連合の Union Session で講演（福島第一原子力発電所事故関連の日本気象学会の活動）

2015.9.10 原子力学会にて講演（原子力関連施設の事故に伴う放射性物質の大気拡散に関する数値予測情報の活用策について —日本気象学会の当該問題作業部会報告から—）2016.2

2016.4.20 原子力規制庁と意見交換（気象学会事務室にて）

\*そのほか、様々な国内・国際の研究集会の開催、研究成果の執筆、啓発活動などを行ってきた。

ゴールドシュミット会議 2016（横浜）を支援していただいた学協会の皆さまへ

ゴールドシュミット会議 2016 組織委員長  
益田 晴恵  
日本地球化学会 会長 塚本 尚義

拝啓 時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

6月26日～7月1日の日程で、パシフィコ横浜を会場に開催されましたゴールドシュミット会議 2016 では、皆様方のご支援とご協力をいただき、たいへんありがとうございました。会議終了後、早い時期にお礼を申し伝えるべきでございましたが、遅くなったこと、申し訳ございません。

本会議は、Geochemical Society と European Association of Geochemistry が主催して毎年行っている学術会議ですが、2003年の倉敷大会以降、久しぶりに日本での開催となりました。日本地球化学会と日本学術会議は前述の2団体と共同主催としてこの会議を運営してまいりました。準備期間中に、日本地球化学会の会長は吉田尚弘・川幡穂高・塚本尚義と交代し、それぞれに学会を代表して準備に関わってまいりました。

本会には69カ国から3740名（最終日までの会場登録者の仮集計）が参加いたしました。本会のみ参加者数はゴールドシュミット会議としては歴代2位となる数字で、たいへん盛会となりました。本会前後に開催されたワークショップや一般講演会などのサブイベントのみの参加者も加えると4000名を超えました。

学術講演会は最終日まで活発な議論がなされ、充実した時間を持つことができました。また、このメールを送っております学協会の会員の方たちからも、セッションだけでなく、ワークショップや見学旅行、会場でのイベントなどの企画・運営などに多大なご支援をいただきました。参加者からは楽しめたという感想を多く聞いております。何より、大きなトラブルはなく、無事に会期を終えることができましたことは、皆様のご支援のお陰であると感謝しております。

今後も、このような機会があれば、相互に支援し合えると幸いだと感じているしいです。末筆ながら、皆様が他の学協会と会員の方々のますますのご発展をお祈りいたします。

敬具